

木材価格市況標準相場

令和8年2月4日

東京木材問屋協同組合
価格市況調査委員会

○今月の価格動向

(1) 値上げ品目	3
南洋材・中国材	1
北洋材・北欧材	1
合 板	1
(2) 値下げ品目	2
合 板	2

○今月の市況動向

1月の商況は、全体的に荷動きは低調で推移した。住宅着工は回復傾向が見られるものの、実需の盛り上がりには至らず、問屋・メーカーとも採算は厳しい状況が続いている。一方で原木価格や輸入コストは高止まりしており、価格は下げにくく、「保合～強保合」が中心となった。また、為替の円安、運賃・加工賃・人件費の上昇により、コスト圧力は強く、今後も価格は底堅く推移する見通し。

(国産材) 秋田では原木の入荷量が安定しており、価格は「やや弱含み」となったものの、16,000円台を維持している。構造材は荷動きが悪い状況が続いているが、輸入材から国産材への切り替えは進んでいる。注文材については、短納期の案件が多く、収益を圧迫している状況である。

(輸入材) 値上がり品目となっている「メルクシーパイン集成材」は、国内在庫がさらに減少している。Aグレードの価格が上昇し過ぎたため、ローグレードへの引き合いが強まっている。また、カナダの2025年のSPF生産量は、2020年比で63.6%との報告があった。

(合板) 輸入合板・国内合板共に、荷動きは低調で推移している。輸入合板の12月通関統計は17.7万㎡と11月から回復したものの、12mm主体のマレーシア産は3.9万㎡の低水準になっている。国内メーカーでは、東西で供給に対する温度差が感じられる。